

# ふれあい・コンタクト

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

円山動物園ボランティア会  
代表世話役 竹尾 昌己

## ニュースレター

### <『ララ』快挙！功勞動物賞受賞>

7月15日『ララ』が、(財)日本動物愛護協会主催の、第3回日本動物大賞で功勞動物賞を受賞しました。絶滅危惧種のホッキョクグマが国内で自然繁殖に成功しているのは、ここ10年で唯一『ララ』『デナリ』ペアのみで、この功績が認められた結果です。これまでに『ツヨシ』『ピリカ』と双子の『イコロ』『ギロル』、そして昨年5頭目(雌)を出産し、円山動物園の人気を高めて多くのファンを魅了した動物園最大の功勞者(功勞熊?)です。まだ16歳。これからも『デナリ』との頑張りに期待が寄せられています。



飼育展示係長 山本秀明さんのお話「この度の受賞は大変光栄であり、飼育員始め関係者一同喜びに沸いております。あらためて『ララ』の偉大さに気付かされました。一方、他の動物園では近年自然繁殖に成功していないことから、動物園に携わる者として少々複雑な気持ちを抱いております。ホッキョクグマは非常に神経質で自然繁殖はとても難しいとされています。『ララ』も4回程失敗して、これまで4回5頭の出産に成功しました。この成功はストレスの無い出産環境を整えたことによるもので、お客様にもご協力を頂いたことも(出産時期は世界のクマ館を終日閉鎖)大きな成果に繋がったものと思います。」

(クマチカ班 鳥山 要)

### <月刊誌 「オトン」に特集記事>

円山動物園開園60周年を記念として、動物園とボランティア会の記事が6月15日発行の情報誌「オトン」に掲載されました。今回は男性世話役5名が取材を受け、日頃皆さんが感じている事や動物園での思い出などを語り、大変有意義なひと時を過ごしました。特にガイドを通じて、子供達に生命を大切にすること、人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心を育てようと話し合いました。雑誌に載ったことで、今後のボランティア活動の励みにもなりました。

(代表世話役 竹尾 昌己)



### <酒井園長の講演から>

6月25日にボランティア向けの酒井園長の講演がありました。『円山動物園60周年 その誕生から現在まで』と云うタイトルでのお話でした。最初に話された「象『インディラ』と移動動物園の話」が、とても面白かったので紹介します。一人の少年が上野動物園園長に送った手紙がきっかけとなり、インドのネール首相から送られた『インディラ』。昭和24年9月、船で芝浦に到着し歩いて上野動物園に向かう時、その後ろには子供達の行列が出来ていたとか。また、『インディラ』を見たいと云う全国の子供達の手紙により、昭和25年移動動物園が開催され、5ヶ月間で400万人が観覧。札幌は7月の1週間、円山の坂下グラウンドで開催され、19万人が来場した事などが当時の新聞で紹介されました。象の名前は『インディラ嬢』と「嬢」が付いていて、皆に愛されていたことが分かります。笑いの多い楽しい講演でした。

(やせい班 加藤 啓子)

### <動物愛護標語募集によせて>

円山動物園では動物愛護週間(9月20日～26日)に向けて、動物愛護に関する標語を来園者から募集しました。私が動物と人間との絆の深さに改めて感動したのは、3・11の東日本大震災で避難を余儀無くされた家族と、ペットや家畜との別れの場面でした。身体全体で抱き締め、涙を流す姿には今も心が痛みます。また、老人介護施設等ではボランティアが連れてきたペットを普段は見せないような笑顔で迎えるお年寄り達を見ると、人間と動物のつながりの大切さを感じます。ちなみに昨年の受賞作品は「たまたま わたしがにんげんで たまたま あなたが おさかなさん」でした。そこに私は人間と動物は平等だと感じました。今年ほどの様な作品が寄せられているのか楽しみです。

(やせい班 伊藤剛)

## <訃報 ダチョウの『バロン』が永眠>

6月16日午後、突然『バロン』がこの世を去りました。右足のふ跗骨の完全開放性複雑骨折。分かり易くは足首がブラブラとし反対方向に向いてしまうとの事。手術をしても体重を支えることが出来ない為、やむなく安楽死の処置を執ったとのこと。事故が起きたときの様子は誰も見ていなかったため、大怪我に至った経緯は分からずじまいです。柵には若いころの武勇伝の痕跡などが残っており、『バロン』の飼育に関わってきた多くの飼育員さんが冥福を祈ったそうです。昭和55年入園。31年間で『ドニー』が亡くなったときには少し元気がなくなりましたが、『飛び出すダチョウのランチタイム』などユニークな餌やりに人気があり、4羽の雛が入ってきてからも元気な姿を見せお客様を楽しませてくれました。長い間お疲れ様でした。

(ワイルド班 田中一江)



## <アースディ 開催される>

6月4日、5日 第5回『アースディ 円山動物園』が開催されました。アースディとは地球のことを考えて行動する日です。そんな日に因んで、北海道では身近な動物ヒグマの毛皮に触れてみたり、木の実や枝などの自然素材を使った工作や、クイズラリーなど様々なイベントが行なわれました。他にも、レッサーパンダのフンを使った紙作りも大人気で、子供達は楽しそうにペットボトルを振り振り、紙作りに精を出していました。美味しそうな焼き菓子や飲み物等を販売している素敵なお店も出ていて、参加者は銘々好きな場所で飲んだり食べたり、楽しんでいる様子が伺えました。大人も子供も楽しめた2日間になったのではないのでしょうか。

(ふれあい班 高橋しのぶ)

## <ツインズオオカミの命名式>

5月に『キナコ』と『ジェイ』の間に誕生したツインズ(共に雄)の愛称命名式が7月9日に行われました。この日は天気にも恵まれ200人を越える、大勢のオオカミファンが押し掛け、挨拶する酒井園長の声も聞き取りにくい程熱気に包まれて、それぞれの名前が発表されました。寄せられた1170票の一般公募の中から、女性二人が応募した『ユウキ』と『ショウ』が選ばれこの日命名されました。選ばれた決め手は、今北海道で一番人気のプロ野球球団『日ハム』の人気選手『斎藤佑樹』選手と『中田翔』選手の名前にちなんだそうです。命名にあたり球団や選手本人にも了解を得ているとの、裏話も紹介されました。円山動物園のシンリンオオカミファミリーはこれで5頭となり、益々人気上昇して多くの来園者を癒してくれるものと期待されます。命名式に参加して、爽やかな気持ちにさせられたのは、私だけでは無かったと思いました。

(クマチカ班 三浦千代美)



## <「レッサーパンダ」『ココ』のお誕生会>

6月の新緑の中で、今年の夏に誕生した双子の『リリィ』『ライラ』姉妹と共に、母『ココ』の誕生会が行なわれました。ファミリー手作りのリンゴケーキを美味しく味わう親子。高い枝に吊り下げた手作りおもちゃで楽しく遊ぶ(?)様子に、笑いが溢れました。今回はそんな仲良し親子を見守りそして『リリィ』『ライラ』の名付け親でもあります渡辺千亜希さんのコメントをご紹介します。

私はレッサーパンダを愛している。

『セイタ』の尻尾にうっとりし、

『ココ』の眼差しにドキドキする。

『リリィ』『ライラ』の健やかな成長ぶりには自然と笑みがこぼれる。

可愛い彼らの一瞬を残しておきたく、休日は写真撮影に時間を費やす。

撮影した彼らの写真は何十万枚あるのだろうか?

その写真は仲間たちと作成した『いつもココから』という小冊子に提供している。

この冊子を通じて、彼らの魅力がたくさんの方々へと伝わると嬉しい。

渡辺 千亜希

(ふれあい班 松山 幸子)

今回のキーパーさん紹介は、サル山担当の小林真也飼育員さんです。お忙しい中、お仕事のこと、プライベートなこと、いろいろお伺いしました。ご家庭では良きお父さんぶりを発揮しているようです。



Q 動物園への入園時期は？また、目指した動機・きっかけは？ 4年前に入園しました。9年間他の部署に籍を置いていましたが、同期の友人が動物園に勤務していたこともあり、誘われたのがきっかけです。何度か動物園を訪れているうちに、元々動物好きだったこともあり、大変そうだが楽しそうでやりがいがありそうだと希望を出しました。

Q 以前はダチョウ・シマウマ担当でしたが、サル山との相違点は？また、サル山で一番難しい点は？ サル山は前とは比較にならないくらい仕事量が多いです。たまに前任者の代番で入っていましたが、やはり担当となると違うと感じました。また、個体識別や設備面のことなど覚えることが多く大変です。難しい点はやはり個体識別でしょうか！今では6~7割くらいは分かります。これから繁殖の時期に入ると喧嘩が多くなり、少しの変化にも敏感になるので、体調の管理や群れを落ち着かせるなど、色々難しいことが増えてきます。

Q 担当動物のみどころ、またおすすめの点は？ 毎年「海の日に」氷のプレゼントがあります。これは面白いです。また、サル同士のかかわり、例えばボスの『中松』や盲目の『ペロ太』が何処に居るか探してみるのも良いと思います。『ペロ太』の食事中、周りのサルの動きを見ていると仲間意識の強さが分かり、とても興味深いです。それと週2回くらいですが、夕方近くに木の枝をレストハウス近くに入れることがあるのですが、サルが木の枝や葉を食べる、とても珍しい光景が見られます。長い時間を掛けてゆっくりと食べさせることで歯をといたり、また、葉を葉代わりに与えると云う目的もあります。是非一度見てください。

Q プライベートなことを伺います。ご家族・趣味についてお聞かせ下さい。 現在34歳です。家族は妻と5歳の男子、3歳の女の子の4人です。上の子とはキャッチボールをよくします。下の子も外遊びが好きなので、一緒に走り回っています。趣味は映画鑑賞・スノーボードで、野球観戦にもでかけます。

Q 最後に将来の夢をお聞かせ下さい。 せっかく飼育員になれたので、色々な動物を担当してみたいです。以前は虫類が少し苦手でしたが今は面白そうだと思います。また、プライベートで色々な動物園を回ってみたいです。お客さんの目線と、飼育員の目線の違いを勉強できればと思います。

インタビューを終えて。お忙しいお仕事の合間を縫っての取材でしたが、本当に気さくに、気持ちよく質問に答えていただき、とても爽やかな印象を抱きました。動物園のお仕事を心の底から楽しんで、そして前向きに取り組んでいる姿を感じました。これからも動物達のために、お仕事頑張ってください。有難うございました。

(ワイルド班 内村まりこ)



### <「カバ」と一緒に虫歯予防デー>

毎年恒例の『ドン』主演のイベントが6月5日開催されました。札幌歯科医師会より特大の歯ブラシが寄贈され、歯医者さんより『ドン』をモデルに正しい歯磨きを伝授して頂きました。『ドン』は大変気持ちよさそうで、ご褒美の果物、とくにマルヤマン&担当キーパーさんの顔が彫刻された西瓜を、ガブリと食べていました。カバはシッポをグルグル回しながらマーキングをして、プールに潜って見つけづらい時があります。アフリカでは一番凶暴者と思われがちですが、本来は臆病な動物で自分の身体を隠して身を守っていると云われています。第二次世界大戦中には上野動物園の象の『花子』ばかりでなくカバの『京子』『マル』親子も、餌不足の為に死亡させてしまったと云う、悲しい出来事もありました。

(ワイルド班 川村登美子)

### <旅行記 パンダ2頭に感激！！>

7月上旬 大好きなジャイアントパンダを見にぶらっと上野動物園に行ってきました。雄(5歳)の『リーリー』と雌(5歳)の『シンシン』が「パンダ座り」をして、両前足を上手に使っておいしそうにタケを食べていました。今後中国と共同で繁殖研究や保護事業を行なっていくにあたり、これから適齢期を迎える2頭には大きな期待が掛かっています。新しい環境に一日も早く慣れてほしいものです。今は一日タケを20~30kg食べるという旺盛な食欲を見せていることで、見ている方は一安心ですネ。



(クマチカ班 竹尾 昌己)

## <7月16日『ドン』42歳、『ザン』36歳の誕生日会 開かれる>

人間で言えば『ドン』は100歳以上、『ザン』は90歳以上と高齢だが、いつも元気で来園者の人気者となっています。動物園ボランティア特製の、おからを土台にしたフルーツ山盛りの二段重ねバースディケーキを、先に『ザン』が、次いで『ドン』が、来園者が歌ってくれる「ハッピーバースディ」を聞きながら、大口でパクつき美味しそうに平らげてくれました。これからも親子共々健康で長生きしてください。お誕生日おめでとう。  
(ワイルド班 水戸久仁子)



## <引っ越ししました>

こんにちは。『ガビアルモドキ』です。この度、新居に引っ越ししました。私たちの新居「は虫類・両生類館」は今までの施設とは一味も二味も違います。以前は狭い水槽の中でおしくらまんじゅうしていた私たちも、広々とした新しい水槽でのびのび泳ぐことが出来るようになりました。私たち爬虫類の他にカエルやイモリ、サンショウウオ等、両生類の仲間も沢山居て、口先が特徴の『パンサーカメレオン』、サファイヤの様に真っ青な『コバルトヤドクガエル』、鼻の頭に角の様な突起のある『サイイグアナ』等、日本では見る事の出来ない珍しい仲間もいっぱい居ます。この施設なら、は虫類や両生類を苦手としている人でも、入って見たくなること間違いなし！楽しさいっぱいの「は虫類館・両生類館」に是非遊びに来てくださいね。(やせい班 成田愛)



## <2011年 氷のプレゼント>

三日間続いた雨模様の後の晴れた日、7月18日に毎年恒例のサル山、ホッキョクグマの『ララ』親子と『キャンディー』に氷がプレゼントされました。サル山ではピラミッド型に積まれた氷に60kgのフルーツが盛り付けられたが、あっという間に無くなり、『キャンディー』には葡萄入りの氷柱、『ララ』親子には西瓜入り氷柱と活魚が振る舞われました。子熊が魚をゲットした時は大歓声が沸き起こり、またチビっ子達にもアイスモナカのプレゼントがあり、美味しそうに食べていて両方共に満足していました。  
(ワイルド班 田中 一江)

## 投函 コーナー



- \*「まだオッパイ飲んでるの？だってまだ0歳だもん！」\*
- \*「ワニだって、機嫌のいいときは笑うんだぜ！ワハハハ！」\*
- \*「眠たいよ〜！」お客様サービスも大変ですね。\*
- \*「アザランさんって尻尾あるの？」「はい！この通り」

- (クマチカ班 山川泰弘)
- (ふれあい班 大場めぐみ)
- (ワイルド班 田中茂雄)
- (クマチカ班 山川泰弘)

## 編集後記

「脱原発」の風潮の中で、経済界は未だ利益最優先の体質から脱出出来ず、原発推進の態度を改めようとしていない。未来の子供達に負の遺産を残したくないものである。動物園は今年も数多くのベビー達が誕生し、生命の大切さを伝えようとしている。私たちボランティアの大切な責務の一つと、改めて考えさせられた。(次回原稿締め切りは9月17日です)

編集スタッフ：小熊 瞳 松山幸子 高橋しのぶ 大地 淳 田中茂雄 田中一江 星原恵子 水戸久仁子 山川泰弘  
小松久恭 成田 愛 加藤啓子  
編集責任者：鳥山 要 (TEL/FAX 011-621-8022) 佐藤正俊